

信州大学医学部附属病院 乳腺・内分泌外科科に
通院中または過去に通院・入院された患者様またはご家族の方へ
当科における臨床研究にご協力をお願いいたします。

2021年10月27日

「術前化学療法(NAC)により臨床的腋窩リンパ節転移陽性から陰性になった乳癌症例の遠隔成績から考えられる NAC 後センチネルリンパ節生検の適応」に関する臨床研究を実施しています。

信州大学医学部倫理委員会の承認を受け、医学部長の許可を得て実施しています。この研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされています。

倫理審査承認番号	5331
研究課題名	術前化学療法(NAC)により臨床的腋窩リンパ節転移陽性から陰性になった乳癌症例の遠隔成績から考えられる NAC 後センチネルリンパ節生検の適応
所属(診療科等)	信州大学医学部附属病院 乳腺・内分泌外科
研究責任者(職名)	前野一真(准教授)
研究実施期間	医学部長による許可日～2025年12月31日
研究の意義、目的	腋窩リンパ節転移を伴った乳癌に対する術前化学療法施行例は多く、腋窩リンパ節転移が消失した患者さんを経験します。腋窩リンパ節転移を伴わない早期乳癌患者さんには腋窩リンパ節郭清省略を目的としたセンチネルリンパ節生検が標準治療として確立されていますが、上記のような術前化学療法後の乳癌患者さんに対するセンチネルリンパ節生検の適応は確立されていません。どのような患者さんに安全なセンチネルリンパ節生検と腋窩リンパ節郭清省略が可能かを考察することを目的とした研究です。
対象となる方	2005年1月1日から2025年12月31日の期間に当院で乳癌について医療を受けられた方
利用する診療記録	性別、年齢、US、CT、PET-CT、穿刺吸引細胞診検査における腫大腋窩リンパ節転移の有無、原発巣への針生検および切除標本の病理所見(組織型、核異型度、リンパ節転移の有無、エストロゲン受容体、プロゲステロン受容体、HER2、Ki67 labeling index)、遠隔転移検査の有無、病期、切除標本における病理組織学的診断、無病生存期間、全生存期間
研究方法	過去の診療記録より上記の内容を収集し、個々の患者さんの各因子と予後との関連について解析します。
共同研究機関名	本研究は、信州大学のみで実施されます。

問い合わせ先	氏名(所属・職名): 前野一真(外科学教室乳腺内分泌外科学分野・准教授) 電話:0263-37-2657
--------	--

既存の検体や診療記録、検査結果を研究、調査、集計しますので、新たな診察や検査、検体の採取の必要はありません。

当院外へ患者様を直接特定できる個人情報がでることはありません。

必要な情報のみを集計します。研究成果は今後の医学の発展に役立つように学会や学術雑誌などで発表しますが、患者様を特定できる個人情報は利用しません。

この研究にご自分の診療記録等を利用することをご了解いただけない場合、またご不明な点については、上記問い合わせ先までご連絡くださいますようお願いいたします。

研究不参加を申し出られた場合でも、なんら不利益を受けることはありません。ただし、同意取り消しの申し出をいただいたとき、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合や、試料や情報が匿名化されて個人が全く特定できない場合などには、結果を廃棄できないこともあり、引き続き使わせていただくことがあります。